

第6回 大牟田・荒尾清掃施設組合 一般廃棄物処理施設整備検討委員会

議事録要旨

開催日時 令和4年3月18日（金）13時30分～15時00分

開催場所 大牟田市役所 北別館4階 第1会議室
荒尾市役所 本館3階 31号会議室

出席委員 9名

内 容

1 開会

- ・ 事務局より開会のあいさつ。
- ・ 事務局より委員会成立の報告。

2 議事

(1) 第5回検討委員会議事録の確認

- ・ 第5回検討委員会議事録について、委員から出された修正点等を反映した後、委員長の最終確認を経て、組合ホームページに掲載する。
- ・ 事務局から、資料1に基づき第5回委員会が出された意見への回答について説明。

<主な意見・質問等>

特になし。

(2) 答申書案について

- ・ 事務局から、資料2-1、資料2-2に基づき、答申書（案）について説明。

<主な意見・質問等>

- 答申書の内容は概ねこれで良いと考えるが、啓発設備の内容を具体的に検討していく際には、学校の先生や子供たちの意見、ニーズを把握し、反映させることを提案する。
- 環境学習での活用ということについては、これまでも多くの意見や提案が出されている。啓発設備の詳細を検討する際には、専門である学校の先生などの意見を聞きながら、設備の内容がより充実したものとなるよう進めていきたい。
- 小さいころからの体験学習はとても大切であると考えている。未就学児から大人になるまであらゆる世代が、この施設で環境について学ぶことができるような啓発内容として

もらいたい。また、啓発設備については先進的なシステムを導入し、新しいごみ処理施設と学校、また、世界とが繋がることのできるような設備としてほしい。

- 資料2-1中、「5 ごみ質について」(15ページ～)の項目について、計画ごみ質設定を示す表5-2の説明を、より分かりやすく追記したほうが良いのではないか。また、表5-1の低位発熱量と表5-3の低位発熱量の数値が異なっている。
 - これまでの検討委員会で検討した結果のみを記載しているため、経過については詳しく記載していないが、よりわかりやすいものとなるよう修正を行いたい。表5-1は大牟田・荒尾 RDF センターの過去7年間のごみ質分析結果をそのまま整理したものである。表5-3は平成30年1月のデータを異常値として抜いて整理したものであるため、低位発熱量の平均値、最大値が表5-1と異なっている。

- 資料2-2中、環境保全目標値の項目では、排ガス基準値などが説明されているが、敷地周辺の道路汚染についての対策はどのようにするのか。
 - 令和4年度以降に実施を予定している生活環境影響調査の結果を踏まえて、必要な対策を検討し、対策を講じていくこととしている。

- ごみ処理量の最低値は決めなくてもよいのか。
 - 最低量は、一般的に施設規模の70~80%になると言われている。詳細は、今後の検討の中で決めていくものである。定格能力に近い方が、施設の運転はスムーズとなり、ごみピットにある程度ごみを溜めてから焼却炉に投入することで、できるだけ定格能力に近い形での運転が可能となる。また、2炉構成を計画しているため、ごみ量が減った場合は、1炉運転で対応することも検討する。

- 煙突の高さはどの程度を考えているのか。
 - 煙突の高さについては、今後、景観や建設コストを踏まえて決めていくものである。航空法で煙突の高さが60m以上になると、航空障害灯の設置が義務付けられているため、59m以下の高さにしていく施設もある。
 - この程度の煙突を建てたとして、冬に北西の風が吹いたら小岱山の麓まで排ガスが飛散し、悪影響が出ると考える。どのように対策をとるのかということについては検討しないのか。
 - 排ガスの影響については、今後、生活環境影響調査の中で、予測シミュレーションを実施し、影響がないように煙突の高さを確認していく。今後、周辺地域に悪影響が及ぶことがないように、慎重に調査を進め、施設整備を行っていきたい。また、供用後には、環境モニタリングで排ガス濃度を定期的に測定し、測定結果の公表を行う。

答申書案については、今回、委員から出された意見を踏まえ、事務局で加筆、修正を行い、委員長の最終確認を経て、大牟田・荒尾清掃施設組合管理者に答申することとした。

3 その他（連絡事項）

- ・ 答申書の手交式を3月23日に開催する。手交式には、検討委員会を代表して委員長と副委員長に出席いただき、管理者に答申を行う。
- ・ 検討委員会終了にあたり、各委員から挨拶があり、最後に大牟田・荒尾清掃施設組合事務局次長が御礼の挨拶を行った。

4 閉会